

# がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

## IVR-CTの更新

2021年10月にIVR-CT 1 台が、皆様からいただいた寄付金を使用して更新されました。IVR-CTは血管撮影装置とCT装置が一体型となったシステムであり、患者さんが撮影室間を移動することなく、血管造影検査、CT検査、IVRを迅速かつ安全に行うことができる複合装置です。(図1)



(図1)

1992年にIVR-CTが当院に世界で初めて導入され、現在2台のIVR-CTで、肝細胞癌や転移性腫瘍に対するTACEなどのカテーテル治療、組織診断や遺伝子診断のために画像誘導下で行う生検、病巣に直接穿刺し治療を行うラジオ波治療、各種ドレナージなどIVR全般に使用しています。今回のシステムは、動画対応血管撮影装置として画素サイズ76 $\mu$ mの高分解能画像を実現、最新のアプリケーションやワークステーションを整備し、より効率的に手技を進めることが可能となりました。CT装置は320列面検出器を搭載し、最大ビーム幅160mmのVolume透視・撮影を実現、AI技術の一つであるディープラーニング技術を応用した画像再構成技術で、ノイズの少ない高品質画像の取得と低侵襲検査の両立が可能となりました。(図2・3)



(図2・3)



医師スタッフ

最新の装置に更新したことで、検査時間の短縮、検査効率、診断・治療精度の向上、患者さんおよび術者の被ばく低減が今まで以上に可能となりました。当院において皆様に高度なIVR治療を提供してまいります。

▶ IVR (Interventional Radiology) : 画像下治療

放射線診断・IVR部技術室科長 服部寿史  
放射線診断・IVR部長 稲葉吉隆

当センターでは、医療体制の充実や研究促進のため、寄附金の受け入れをしています。いただいた寄附金は、医療・研究機器や設備の充実、がん克服に向けた研究推進などに使わせていただきます。申込方法などの詳細はHPをご覧ください。

<https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/cc/01gaiyo/kihu/index.html>

皆様のご理解、ご厚志をお寄せいただきますようお願い致します。



# 患者満足度調査から見えること 今後の改善に向けて2021

愛知県がんセンターでは、安全で安心な医療サービスを提供するため、患者さんからご協力いただき、毎年「患者満足度調査」を行っております。今年は外来で9月28・30日、入院では9月28~30日に実施いたしました。その結果をお知らせいたします。

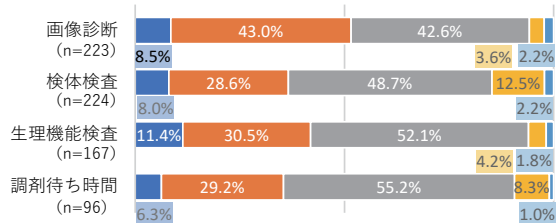
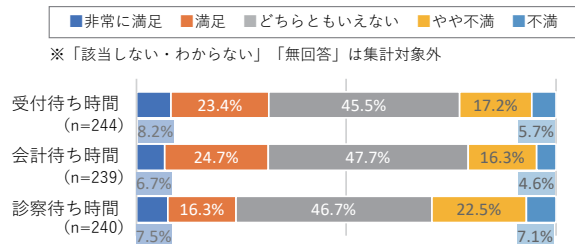
- 1. 調査件数** 外来部門 配布枚数：300枚 有効回答数：264件（回答率：88.0%）  
 入院部門 配布枚数：300枚 有効回答数：187件（回答率：62.3%）

**2. 調査結果**

**1) 総合的に当院を100点満点で評価すると何点ぐらいになりますか**

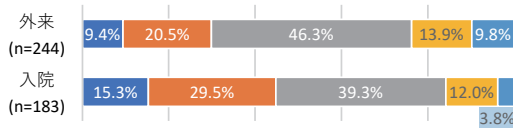
- ①外来部門 平均83.5点      ②入院部門 平均86.6点

**2) 外来待ち時間満足度**

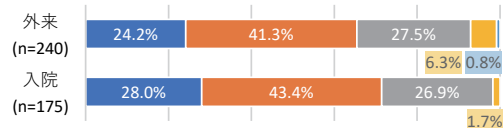


**3) 満足度（一部抜粋）**

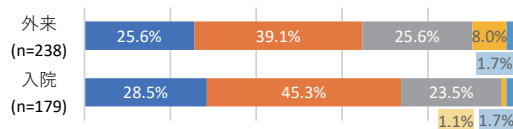
【設備・施設】 トイレの清潔さ、使いやすさ



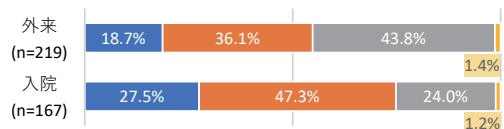
【医師】 病状や検査結果の説明のわかりやすさ



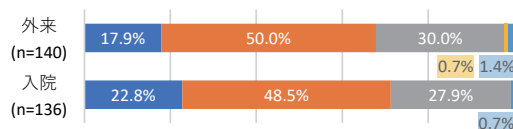
【医師】 質問や相談のしやすさ



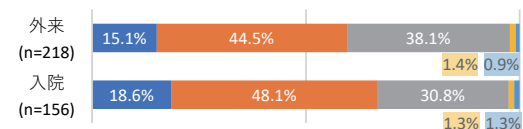
【看護師】 痛みやつらさ、不安等を和らげる配慮



【薬剤師】 薬の説明のわかりやすさ



【放射線技師】 検査に関する説明



## 研究所副所長就任のあいさつ

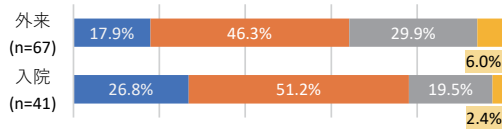


研究所副所長  
青木正博

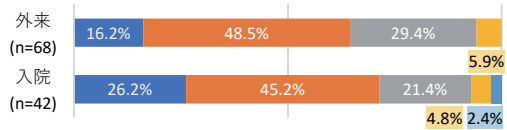
2022年1月1日付けで研究所副所長を拝命いたしました青木正博です。がん病態生理学分野長と共通機器室長を兼務しております。2010年12月に着任以来、大腸がんの微小環境・転移、がん悪液質の研究を進めてまいりました。

今後は、愛知県がんセンターならではの特色ある研究活動をさらに加速して、それらの成果を少しでも早く県民の皆様へ届けられるよう、関戸副所長とともに井本所長を全力で補佐してまいります。研究の発展には何より「人」が重要と考えます。様々なバックグラウンドや立場で研究に携わる研究所員は元より、病院・運用部職員とも緊密に連携して、一丸となって研究を推進できるようインフラを整備し、外部研究機関との協力体制強化にも注力したいと思います。皆様、今後とも温かいご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

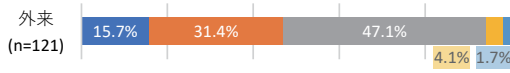
## 【相談支援センター】相談したい内容を相談できたか



## 【相談支援センター】相談したい内容についての説明



## 【治療センター】治療しながら生活することへの看護師の説明



## 【入浴】入浴・シャワーの設備



## 【食事】食事のメニュー



## 【食事】食事の味



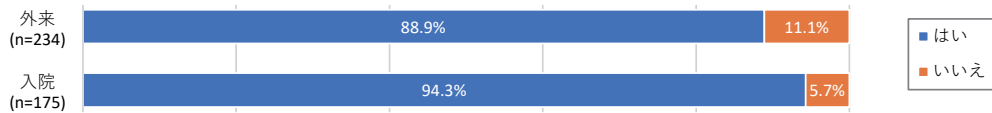
## 【退院】退院時の看護師の説明



## 【退院】退院後の生活についての説明



### 4) すべての職員は検査や処置などの前に、フルネームでお名前を名乗っていただくようにしていましたか



## 3. 総 評

「患者満足度調査」にご協力いただきありがとうございました。本調査は当院が患者さんの立場に立った安全で安心な医療サービスを提供できているのか、多くの患者さんのご意見をいただく貴重な機会となっております。そのため、患者さんに丁寧な説明ができているのか、何かお困りごとがあった際に支援ができているのかなどを質問させていただきました。わずかではありますが、改善できていることもあります。同時にまだ多くの課題があると感じました。また、安全な医療を提供する上で最初に必要な患者さんの確認を2識別子（フルネームと生年月日）でさせていただきよう一昨年度から取り組んでおります。まだ、100%に至っておらず引き続き全職員で取り組んでいきます。今後も、いただいた貴重なご意見、調査結果を受け止め、一つずつ改善できるよう取り組んでまいります。

(2021年度患者サービス委員会委員長 安田啓介)

※全ての調査項目につきましては、ホームページで公開します。 <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/>

## 「JCA-Mauvernay Award」受賞



がん標的治療TR分野長 衣斐寛倫

この賞は、2005年に日本癌学会とスイスの製薬会社であるDebiopharm社により設けられた、基礎および応用的がん研究の領域で優れた業績を収めた50歳未満の会員を表彰するものです。

本賞は、特に応用的研究（トランスレーショナルリサーチ）に重点を置いており、幸運にも受賞することができました。私の受賞テーマは「MAPKシグナルに異常を示す腫瘍に対する治療開発」で、現在は遺伝子パネル検査などで最も高頻度に異常が見つかるKRAS遺伝子異常に対する治療法を見つけることを目指しています。この数年、創薬の進歩により少しずつですが治療開発が進んでおり、基礎・臨床を通じ、患者さんに薬を届けられるよう受賞を励みに頑張りたいと思います。

## 「日本疫学会奨励賞」受賞



がん予防研究分野主任研究員

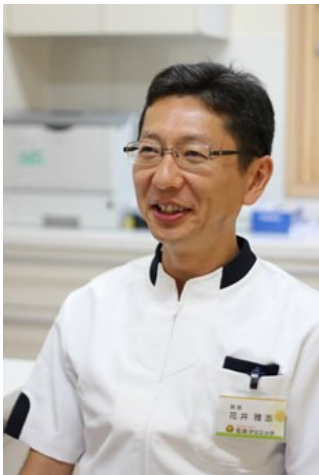
尾瀬 功

この賞は優れた研究を行った若手・中堅研究者に与えられる賞で、授賞式は2021年1月の第31回日本疫学会学術総会にて行われました。私は2008年から現在まで当研究所でがんの疫学研究を行ってきました。その一連の研究のうち、特に遺伝子の働きの違いにより食道がん・頭頸部がんに対する飲酒の影響が個人で異なることを明らかにした研究や、大規模疫学研究データを使って食道がんでは飲酒と喫煙がリスクを高め合うことを示した研究が評価されました。

この受賞で満足することなく、個人の特徴に応じたがん予防の実現を目指し、研究に一層励みたいと思います。

# とうろく医探訪

## せとかいどう花井クリニック 院長:花井 雅志 先生



愛知県がんセンターの皆様には平素よりお世話になり誠にありがとうございます。特に乳腺科の先生方とはがん地域連携パスを通じてお世話になっており、最近では当院からの紹介だけではなく、他院から紹介された方の逆紹介を頂く場合も増えており大変感謝しております。

当院は尾張旭と守山の境目にあり、名鉄瀬戸線の印場駅から徒歩3分で、駐車場も完備しております。内科、外科、乳腺外科、肛門外科を標榜しており、近隣の方は生活習慣病をはじめとした一般内科としてご利用いただいております。外科としてはケガや巻き爪の治療を行っております。巻き爪については遠方からおみえになる方も多く、患者さんと相談して手術にするかワイヤーにするか治療法を決めております。乳腺外科では生検まで行い癌の診断となればご紹介させていただきます。手術までの時間を少しでも短縮できるように当院でできる検査はなるべく済ませてしまいます。また、手術が終わってからがん地域連携パスで診療もしております。がん地域連携パスは紹介先の先生と私が連携して診療することですが、患者さんからは二人の主治医がいて安心感があると感謝されております。肛門外科では痔の日帰り手術を行っております。局所麻酔だけでなく仙骨硬膜外麻酔（肛門全体の麻酔）も導入しており様々な手術に対応することができます。

開院して7年となりましたが、まだまだフレッシュな気持ちで頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



皆が元気で笑顔になれるクリニック



### 【医療機関情報】

## せとかいどう花井クリニック

診療科目／内科・外科・乳腺外科・肛門外科

電話／TEL 0561-52-8715

所在地／〒488-0840

愛知県尾張旭市印場元町 3-4-5

ホームページ／<https://setokaido-hanai.com/index.html>



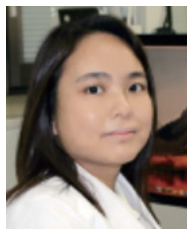
※印場駅から徒歩3分！

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前	9:00-12:00	○	○	○	○	○	★	/
午後	16:00-19:00	○	○	/	○	○	/	/
★…9:00-12:30		【休診】日曜・祝日、水曜午後、土曜午後						
※午後(午前診と夕診の間)に完全予約制で手術・往診などを行います。								

編集後記：第22回は、尾張旭市瀬戸街道沿いにある「せとかいどう花井クリニック」です。花井院長の“花”から、ひまわりをモチーフにしたロゴマークにはじまり、看板、内装、ホームページに至るまで黄色系にコーディネートされており目を惹きます。とくに見やすく必要な情報が得られるホームページは秀逸です。「かかりつけ医として守備範囲の広い医療を提供します。」という方針にもあるように、一般内科から外科、日帰り手術、乳がんに至るまで幅広い診療で地域を支えるクリニックです。これからもよろしく願いいたします。 Y.SANO

## 頭頸部・消化器がんリスクと社会経済格差の関連

研究所 がん予防研究分野



がん予防研究分野  
リサーチレジデント

川勝雪乃

たばこやお酒など、悪い生活習慣はがんのリスクになります。一方で近年、社会経済的な格差（教育レベル、職業、経済状況など）が健康格差につながっているとの報告があります。一部のがんにおいても、社会経済的地位（socioeconomic status、以下SES）が悪いほど、がんにかかりやすく死亡しやすいとされています。一般的に、SESが悪いほど、悪い生活習慣の方が多い事が分かっています。では、SESによるがんリスクの格差は、単に生活習慣が善し悪しによるのでしょうか？これを明らかにするため、2005年から2013年に当センターを受診した、頭頸部・食道・胃・大腸がんの患者さん計3188人と、がんではなかった患者さん3188人のデータを比較し、がんリスクとSESの指標としての教育歴の長さの関連を検討しました。生活習慣の違いを統計学的に考慮しても、いずれのがんにおいても、教育歴が長いほどがんのリスクが低くなっている（図）ことがわかりました。がんリスクの背景に、生活習慣だけでは説明出来ない社会経済的格差が存在する事が明らかになりました。この格差の原因を明らかにし、がんのなりやすさに関する格差が縮まるがん対策に生かせるよう、エビデンスを積み上げていきたいと考えています。

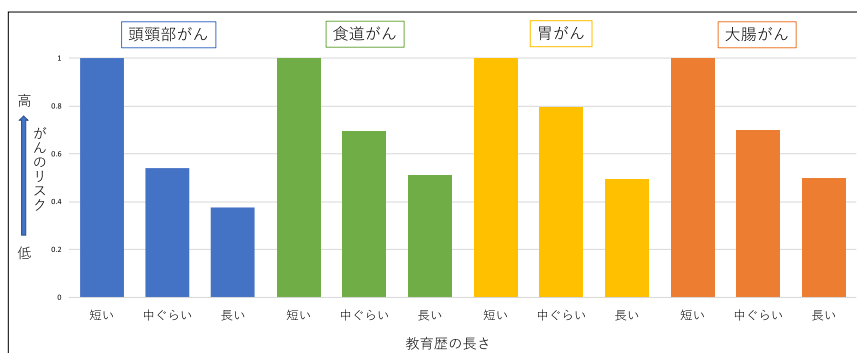


図 教育歴とがんリスクの関連（たばこ、飲酒等の生活習慣の影響は調整済み）



### 新たながん免疫療法の開発を目指して

腫瘍免疫応答研究分野長 籠谷勇紀

この度、日本対がん協会より2021年度リレー・フォー・ライフ・ジャパン「プロジェクト未来」研究助成支援をいただくことになりました。がんに対する新しい免疫療法開発に関する基礎研究で、非常に貴重な支援をいただけることに感謝申し上げます。

がん免疫療法は新しい治療薬が次々と開発され、最も注目されている治療方法の1つですが、一時的な効果ではなく治療が得られることは未だ多くありません。この研究では体の中の免疫細胞をがん細胞だけを攻撃させるように活性化させる信号を送る人工ナノ装置（大きさ100 nmぐらいの小さい物質で、血管の中に注射して投与できる）の開発を目指しており、まずは基礎研究成果を十分に積み上げ、一日でも早く治療に応用できるよう努力したいと思っております。

## 2021年度「研究所報告会」を開催しました

愛知県がんセンター研究所の研究者が一年間の成果を発表する「研究所報告会」を、センター内で開催しました。新型コロナウイルス対策のためオンライン発表（10月21日、26日）とポスター発表（10月25日）のハイブリッド形式で行いました。

オンライン発表では、新任研究員・レジデントの自己紹介を兼ねた短い発表があり、その後、各研究分野（10分野）およびバイオバンク部門の研究内容について、分野長および部門長から、最新の成果と将来のビジョンが発表されました。

また、メインイベントであるポスター発表では、がん研究の多様な領域をカバーする愛知県がんセンター研究所の特色を反映した、計28件の発表が行われました。感染予防対策の下、各ポスターの前では発表者の渾身の説明に参加者が耳を傾けあるいは質問し、静かながら熱い専門家同士の議論が繰り広げられていました。

全体を通じて、各研究者のモチベーションと研究所全体のアクティビティを高めることにつながる有意義な会となりました。



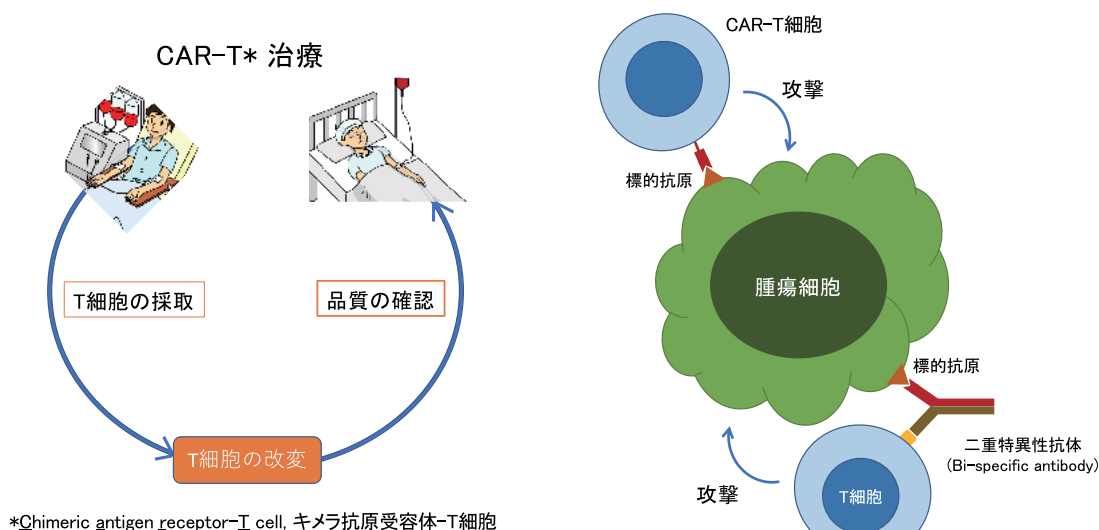
システム解析学分野長 山口 類

# 新しい免疫・細胞療法

病院 血液・細胞療法部

最近のがん治療では、抗がん剤でがん細胞を直接死滅させるのではなく、免疫の力でがん細胞を攻撃する治療法が大きな柱のひとつになっています。ノーベル賞を受賞した京都大学の本庶佑先生のもとで研究をした石田靖雅先生（愛知県がんセンターOB）の研究を基に開発された「抗PD-1抗体薬」は、固形がんや血液がんで使用されていますが、生体内でがん細胞を攻撃する能力が弱まった免疫細胞を活性化することでがん細胞を縮小させます。以前より、白血病などの血液がんでおこなっている同種造血幹細胞移植（同種骨髄移植など）は、ドナー（提供者）の細胞がドナーと患者さんの僅かな差を認識して、免疫反応により患者さんのがん細胞を攻撃することを期待した治療法です。血液がんでは、最近、遺伝子改変技術を用いて、免疫細胞のひとつT細胞をがん細胞を攻撃できるように体外で改造し、患者さんに戻すCAR-T（chimeric antigen receptor-T cell, キメラ抗原受容体-T細胞）治療が保険承認され実施されています。さらに、がん細胞とそれを攻撃するT細胞を近づけることで効率良くがん細胞を攻撃する抗体薬（bi-specific antibody, 二重特異性抗体）の開発が進んでいます。新しい免疫・細胞療法により、多くのがん患者さんの治療成績が向上することが期待されています。

血液・細胞療法部長 山本一仁



図：CAR-T細胞と二重特異性抗体による治療

## 泌尿器科部 スタッフの紹介

泌尿器科部は現在スタッフ3名で診療にあたっています。本年度から膀胱がんに対するロボット補助下膀胱全摘を開始いたしました。前立腺がん、腎がんに加えてすべてのがん腫においてのロボット手術が可能となりました。さらに、さまざまな患者さんのニーズに対応できるように、腎がんにおいては定位放射線治療、膀胱がんにおいては化学放射線治療による膀胱温存治療を開始いたしました。がん専門病院として、がん治療に特化した確かな知識、技術のもと、患者さんに満足していただける治療体制を構築しております。泌尿器がんのことであれば、お気軽にご相談いただければと思います。



写真：後列、泌尿器科部スタッフ一同  
前列左から、小倉友二（医長）、小島崇宏（部長）、関戸 翔（医長）

## 特定行為研修を修了した看護師が活動を開始しました！

病院 看護部

「特定行為に関する看護師の研修制度」とは、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、多様化する医療のニーズに応えるための国の施策です。保健師助産師看護師法が一部改正され、本研修の受講と手順書（医師の指示）があれば、医行為の一部（例えば動脈採血）を看護師の判断で実施できるようになりました。

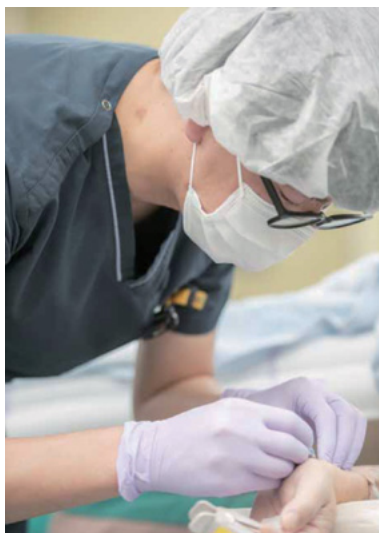
2021年9月時点での研修修了生は全国で4,393名。当院では、昨年初めて2人の特定行為研修修了者が誕生しました。「術中麻酔管理」「外科術後病棟管理・重症集中」領域の1年以上に及ぶ研修では、医師が行う診断過程を学び、自施設での実習を終えています。現在2人は、手術室・集中治療室を拠点に組織横断的に活動しています。

地域のがん医療を支え、少子高齢化に立ち向かって行くためには、改革が求められています。高度で先進的ながん医療を提供している当院にとって、2人の活動が、多様化する医療のニーズに対応し、安全かつタイムリーな医療の提供に寄与すること、そしてがん看護のボトムアップとチーム医療の向上に繋がると信じています。

看護部長 林 美子

### 特定行為研修修了生よりひと言

「術中麻酔管理」「外科術後病棟管理・重症集中」領域の特定行為研修を修了した看護師が活動を開始しました。患者さんにとって一番近い存在の医療者として、医療・看護の両側面から「その人らしさ」を支援します。看護師だからできる意義ある実践にこだわり、安全で質の高いがん医療を効率的に提供できるよう研鑽していきます。



「術中麻酔管理コース」  
山田健司



「外科術後病棟管理・重症集中コース」  
深堀慎一郎

## 薬剤部 スタッフの紹介

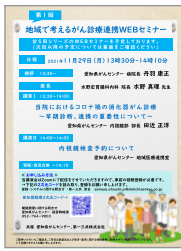
薬剤部では、がん患者さんに最良で心あるがん医療、安心・安全な薬物療法を提供することを理念として薬の専門家としてチーム医療の一翼を担うべく、的確な処方監査、正確な調剤と薬品の供給、迅速な医薬品情報提供、かわりやすい服薬指導、治験業務、チーム医療への参画などの取り組みをしています。薬剤部長、薬務科（14名）、調剤科（8名）で頑張っています。



写真：後列左から、堀 恭子（技師）、柴田修汰（技師）、村田史子（技師）、安川稔昭（技師）、須田貴斗（技師）、増田明莉（技師）  
前列左から、三輪洋介（専門員）、前田章光（専門員）、加藤正孝（薬剤科長）、松崎雅英（薬剤部長）、伊藤裕子（調剤科長）、平島佳代（専門員）、橋本直弥（専門員）

## 地域で考えるがん診療連携WEBセミナー

2021年11月29日(月)から、第一三共株式会社との共催で「地域で考えるがん診療連携WEBセミナー」を始めました。毎月テーマを変えて行う計5回のシリーズで、これまでに、コロナ禍の消化器がん診療を始めとする診療科からの紹介や地域連携室からの予約の案内等、意見交換等を行いました。2月15日(火)の第4回は、頭頸部に関する内容を予定しています。コロナ禍では情報交換の機会が少なくなりがちですが、当センターは、このWEBセミナーを通じて、引き続き地域の医療機関との連携強化を図っていきます。



## 第16回中部地区 がん医療連携学術講演会のお知らせ

近隣の医師会、歯科医師会、薬剤師会のご協力のもと、医療従事者を対象に「第16回中部地区がん医療連携学術講演会」を開催します。講演会では、最新のがん治療を紹介いたします。

日時 2022年2月26日(土) 17:00~  
場所 オンライン開催

※伊東医師による「コロナ禍でのがん治療」に関する講演もあります。

## 医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分 土曜日 午前9時00分～午後1時00分(祝日、年末年始を除く)
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	<a href="https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/">https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/</a> 病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

## 外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分(自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科(サルコーマ外来)、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、精神腫瘍科、緩和ケア科(ペインクリニック)、リンパ浮腫外来、リスク評価センター、がんゲノム外来
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通)午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)  
※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)  
※精神腫瘍科、リスク評価センターは、予約のみの対応です。

## 交通のご案内

### ★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分  
市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩3分

### ★車でのご案内

#### ◎一般道路

本山交差点から北へ約7分、平和公園の北西

#### ◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分  
名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 編集：運用部 経営戦略課 企画・経営グループ

ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

「がんセンターNEWS」に関するご意見・ご感想は [☒\(kohonews@aichi-cc.jp\)](mailto:kohonews@aichi-cc.jp) または FAX(052)764-2963 にてお寄せください。

なお、個別の返答は致しかねますのであらかじめご了承ください。

愛知県がんセンター

検索

がんセンターNEWSは古紙配合再生紙を使用しています。